

平成27年1月29日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 鳥取県教育委員会

所 在 地 鳥取県鳥取市東町一丁目 271 番地

代表者職氏名 教育長 山本 仁志

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

| | | | |
|------|------------------------|------|----------|
| ふりがな | とっとりけんりつやずこうとうがっこう | ふりがな | おぐら けんいち |
| 学校名 | 鳥取県立八頭高等学校 | 校長名 | 小倉 健一 |
| ふりがな | わかさちょうりつわかさがくえんちゅうがっこう | ふりがな | さわだ あきのり |
| 学校名 | 若桜町立若桜学園中学校 | 校長名 | 澤田 明範 |
| ふりがな | わかさちょうりつわかさがくえんしょうがっこう | ふりがな | さわだ あきのり |
| 学校名 | 若桜町立若桜学園小学校 | 校長名 | 澤田 明範 |

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小学校英語教育の教科化と中学校・高等学校の内容の高度化に伴い、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を系統的に育成していく観点から、教育課程、指導方法、評価方法等の改善について小中一貫校の特色を生かして研究開発する。

(2) 研究の概要

小学校外国語活動から中学校英語への接続で、聞くことや話すことでは効果が表れているが、文字の扱いは入ってくると学習に困難さを感じたりする生徒が出てくるという課題に対して、小学校の段階から英語を読むことや書くことに慣れ親しませることによって中学校の英語学習にスムーズにつなげていけるように、効果的な文字指導のあり方や技能別コミュニケーション能力の系統的な育成方法、学習意欲を引き出す評価の在り方等について小中一貫校の特色を生かして研究する。

高等学校では、授業における英語の使用について、教員と生徒の間では教材の内容に関する平易な応答はできているが、生徒同士の英語によるコミュニケーション活動は活発ではないという課題に対して、小学校段階からコミュニケーション活動において多くの成功体験が積めるように、文構造、語彙などの知識獲得・定着の面も含めて、教育課程を系統的に整備し、高等学校で

ある程度の長さの文章を速読して必要な情報を取り出したり、社会性のある問題について理由を併せて意見を述べたりするなど、より高度な言語活動が行えるように目標や内容について研究する。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

小学校では、簡単な会話を楽しむことができており、児童の意欲も高い。しかし、中学校入学後、音声を文字化していく段階になると一気に苦手意識をもったり学習に困難さを感じるようになる。そこで小学校の段階から英語を読むことや書くことに慣れ親しませることによって中学校の英語学習にスムーズにつなげていけるように、以下の点について研究を進めたい。

- ・小学校段階での学習意欲を継続させる方法
- ・学習意欲を引き出す評価の在り方
- ・効果的な文字指導の導入、音と綴りの指導
- ・中学校における技能別コミュニケーション能力の系統的な育成

高等学校では、CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定しながら、4技能を統合したコミュニケーション活動を実践している。しかし、授業における英語使用について、教員と生徒の間では使用教材の内容に関する平易な応答はできているが、生徒同士の英語によるコミュニケーション活動は必ずしもうまくいっていない。その理由としては、コミュニケーション活動への自信の裏付け（成功体験）の少なさが考えられる。その自信を高めるには小学校、中学校での成功体験を高校での成功体験に円滑に接続させたいが、それには活動経験だけでなく、文構造、語彙などの知識獲得・定着の面での連携も必要である。この2つの面での接続・連携を円滑に、効果的に行うことを目的に研究を行いたい。

②研究仮説

- ・小中一貫校の特色を生かし、9年間を見通したカリキュラムを考え、小学校の早い時期からALTを活用したり、小中異学年合同学習を行ったりすることをおして、英語に慣れ親しませ、学習意欲を高める。
- ・小学校から英語を読むことと書くことの指導を導入することによって中学校英語に円滑に接続し、高等学校まで見通した「読むこと」の言語活動の高度化を図る。
- ・小学校から高等学校まで見通して、CAN-DO リスト形式での学習到達目標を年間指導計画の中に適切に位置づけることによって、子供達に4技能バランスのとれた英語によるコミュニケーション能力を身に付けさせる。
- ・教師が授業における英語の使用割合を増やす、言語活動の割合を増やす、スピーキングテストやライティングテストなどパフォーマンステストの回数を増やすことによって、子ども達の英語によるコミュニケーション能力を伸長する。

③研究成果の評価方法

【児童・生徒】

- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査
- ・CAN-DO リスト形式での単元目標の達成状況
- ・英語力調査（英検等）

【教員】

- ・ CAN-DO リスト形式での単元目標の設定（小・中・高で系統立てる）
- ・ 「話すこと」「書くこと」に関するパフォーマンステストの回数
- ・ 授業中の英語の使用割合
- ・ 英語力調査（英検等）

(4) 研究開発型

| | 開始学年及び週当たり授業時数コマ | | | |
|----------------|-------------------|---------------|---------------|---------------|
| | 第一年次 | 第二年次 | 第三年次 | 第四年次 |
| ①小学校 外国語活動型 | 第3・4・5・6学年 1コマ | 第3・4学年 1コマ | 第3・4学年 1コマ | 第3・4学年 1コマ |
| ②小学校 教科型 | 第 学年 コマ | 第5・6学年 1コマ | 第5・6学年 2コマ | 第5・6学年 3コマ |

(5) 研究計画（平成26年度の進捗状況・課題）

第一年次～第四年次、校種別

第一年次

[小学校]

- ・ 3・4年生における外国語活動の実施（外国語活動教材 “Hi, friends!”）
- ・ 3・4年生における外国語活動の授業研究会（指導助言者を招聘し、広く公開する）
- ・ 5・6年生における外国語活動の実施（外国語活動教材 “Hi, friends!”）
- ・ 5・6年生における教科型週1コマの年間指導計画、単元ごとの CAN-DO リスト形式による学習到達目標の作成（外国語活動教材 “Hi, friends!” を使用して「読むこと」「書くこと」の学習活動も構想する）
- ・ ALTによる教員の英語コミュニケーション能力向上講座
- ・ 先進校視察

[中学校]

- ・ 単元ごとの CAN-DO リスト形式による学習到達目標の作成、小学校の学習到達目標との整合を図る。（検定教科書）
- ・ 音と綴りを関連づけた系統的な指導の計画
- ・ 中高連携授業研究会（「読むこと」をテーマとし、指導助言者を招聘し、広く公開する）
- ・ ALTによる教員の英語コミュニケーション能力向上講座
- ・ 先進校視察

[高等学校]

- ・ 単元ごとの CAN-DO リスト形式による学習到達目標の評価方法の作成（検定教科書）
- ・ 中高連携授業研究会（「読むこと」をテーマとし、指導助言者を招聘し、広く公開する）
- ・ 先進校視察

第二年次

〔小学校〕

- ・ 3・4年生における外国語活動の実施（外国語活動教材 “Hi, friends!”、独自教材）
- ・ 5・6年生における週1コマの教科型英語教育の実施（文部科学省作成予定の補助教材）
- ・ 5・6年生における教科型週2コマの年間指導計画、単元ごとの CAN-DO リスト形式による学習到達目標、評価規準の作成

〔中学校〕

- ・ CAN-DO リスト形式による学習到達目標の達成状況の把握（検定教科書）
- ・ 中高連携授業研究会（「読むこと」をテーマとし、指導助言者を招聘し、広く公開する）

〔高等学校〕

- ・ CAN-DO リスト形式による学習到達目標の達成状況の把握（検定教科書）
- ・ 中高連携授業研究会（「読むこと」をテーマとし、指導助言者を招聘し、広く公開する）

第三年次

〔小学校〕

- ・ 3・4年生における外国語活動の実施（外国語活動教材 “Hi, friends!”）
- ・ 5・6年生における週3コマの教科型の時間割、指導体制等の研究
- ・ 5・6年生における週3コマの年間指導計画、CAN-DO リスト形式での学習到達目標、単元ごとの評価規準、評価方法の作成（文部科学省作成予定補助教材）

〔中学校〕

- ・ CAN-DO リスト形式による学習到達目標のより高度化への見直し（検定教科書）
- ・ 中高連携授業研究会（指導助言者を招聘し、広く公開する）

〔高等学校〕

- ・ CAN-DO リスト形式による学習到達目標のより高度化への見直し（検定教科書等）
- ・ 中高連携授業研究会（指導助言者を招聘し、広く公開する）

第四年次

〔小学校〕

- ・ 3・4年生における外国語活動の実施（外国語活動教材 “Hi, friends!”）
- ・ 5・6年生における週3コマの教科型英語の実施（文部科学省作成予定補助教材）
- ・ 研究会、発表会を通して全県への成果発表

〔中学校〕

- ・ 「授業は英語で行うことを基本とする」授業の実施（検定教科書）
- ・ 中高連携授業研究会（指導助言者を招聘し、広く公開する）

〔高等学校〕

- ・ 発表、討論、交渉等の高度な言語活動を行う英語授業の実施（検定教科書等、独自教材）
- ・ 中高連携授業研究会（指導助言者を招聘し、広く公開する）

○平成26年度の進捗状況・課題

第一年次の計画については概ね実施することができたが、小学校における「教科型週1コマの年間指導計画」と中高連携のテーマとしている「読むこと」に関して以下の課題がある。

まず「教科型週1コマの年間指導計画」について、来年度は、段階的な教科化の導入という観点から、小学校5・6年生で、週1コマの教科型の授業を行う計画であるが、本来3時間で行うべき内容の中から何を取捨選択して実施していくべきか検討が必要である。

次に、中高連携のテーマとしている「読むこと」については、CAN-DOリストの形での学習到達目標の「読むこと」について、中高間の接続を意識して、より細かく具体的な目標設定のもとに、授業研究に協同して取り組んでいく必要がある。

(6) 評価計画 (平成26年度の進捗状況・課題)

第一年次

〔小学校〕

- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（3～6年生、9月）
- ・ALTによる教員の英語コミュニケーション能力向上講座参加者数（12月）

〔中学校〕

- ・音と綴りを関連づけた指導の検証
- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（1～3年生、9月）
- ・「話すこと」「書くこと」に関するパフォーマンステストの回数（1～3年生、12月）
- ・授業中の英語の使用割合（1～3年生、12月）
- ・教員の英語力調査（12月）
- ・外部試験の活用による生徒の学力の検証

〔高等学校〕

- ・CAN-DOリスト形式での単元目標の達成状況（1～3年生、12月）
- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（1～3年生、9月）
- ・「話すこと」「書くこと」に関するパフォーマンステストの回数（1～3年生、12月）
- ・授業中の英語の使用割合（1～3年生、12月）
- ・教員の英語力調査（12月）

第二年次

〔小学校〕

- ・学力調査（6年生、10月）
- ・音と綴りを関連づけた指導の検証
- ・CAN-DOリスト形式での単元目標の達成状況（5・6年生、12月）
- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（3～6年生、9月）
- ・教員の英語力調査（12月）

〔中学校〕

- ・学力調査（1～3年生、4月）
- ・CAN-DOリスト形式での単元目標の達成状況（1～3年生、12月）

- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（1～3年生、9月）
 - ・「話すこと」「書くこと」に関するパフォーマンステストの回数（1～3年生、12月）
 - ・授業中の英語の使用割合（1～3年生、12月）
 - ・教員の英語力調査（12月）
- [高等学校]
- ・学力調査（1～3年生抽出、9月）
 - ・CAN-DO リスト形式での単元目標の達成状況（1～3年生、12月）
 - ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（1～3年生、9月）
 - ・「話すこと」「書くこと」に関するパフォーマンステストの回数（1～3年生、12月）
 - ・授業中の英語の使用割合（1～3年生、12月）
 - ・教員の英語力調査（12月）

第三年次

[小学校]

- ・学力調査（6年生、10月）
- ・CAN-DO リスト形式での単元目標の達成状況（5・6年生、12月）
- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（3～6年生、9月）
- ・教員の英語力調査（12月）

[中学校]

- ・学力調査（1～3年生、4月）
- ・CAN-DO リスト形式での単元目標の達成状況（1～3年生、12月）
- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（1～3年生、9月）
- ・「話すこと」「書くこと」に関するパフォーマンステストの回数（1～3年生、12月）
- ・授業中の英語の使用割合（1～3年生、12月）
- ・教員の英語力調査（12月）

[高等学校]

- ・学力調査（1～3年生抽出、9月）
- ・CAN-DO リスト形式での単元目標の達成状況（1～3年生、12月）
- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（1～3年生、9月）
- ・「話すこと」「書くこと」に関するパフォーマンステストの回数（1～3年生、12月）
- ・授業中の英語の使用割合（1～3年生、12月）
- ・教員の英語力調査（12月）

第四年次

[小学校]

- ・学力調査（6年生、10月）
- ・CAN-DO リスト形式での単元目標の達成状況（5・6年生、12月）
- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（3～6年生、9月）
- ・教員の英語力調査（12月）

〔中学校〕

- ・学力調査（1～3年生、4月）
- ・CAN-DO リスト形式での単元目標の達成状況（1～3年生、12月）
- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（1～3年生、9月）
- ・「話すこと」「書くこと」に関するパフォーマンステストの回数（1～3年生、12月）
- ・授業中の英語の使用割合（1～3年生、12月）
- ・教員の英語力調査（12月）

〔高等学校〕

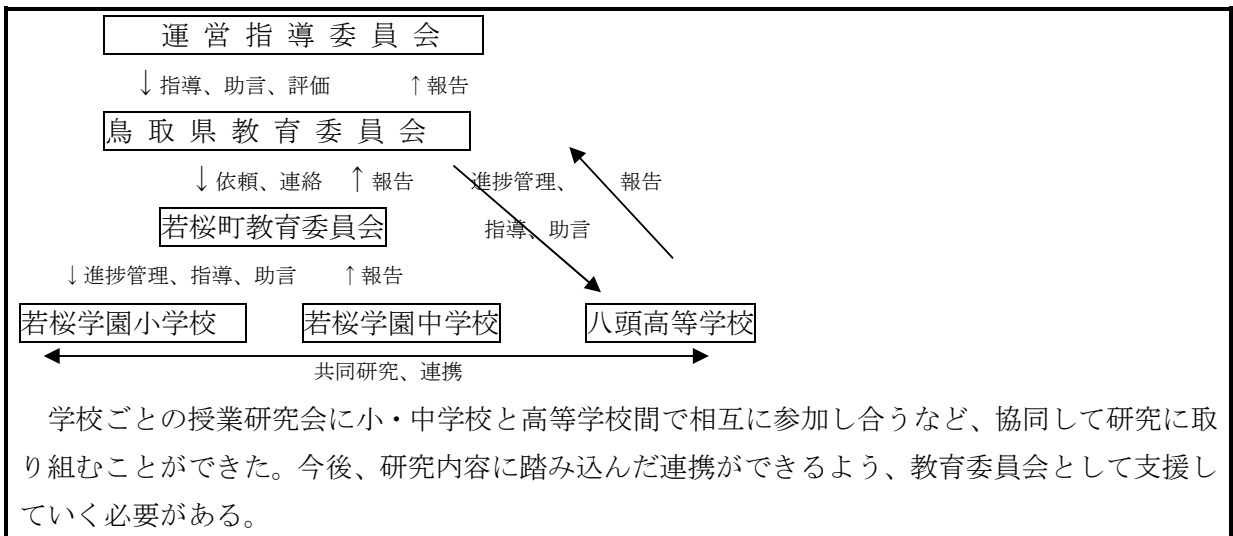
- ・学力調査（1～3年生抽出、9月）
- ・CAN-DO リスト形式での単元目標の達成状況（1～3年生、12月）
- ・英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査（1～3年生、9月）
- ・「話すこと」「書くこと」に関するパフォーマンステストの回数（1～3年生、12月）
- ・授業中の英語の使用割合（1～3年生、12月）
- ・教員の英語力調査（12月）

○平成26年度の進捗状況・課題

第一年次の計画については概ね実施することができたが、児童生徒の意識調査や英語教育実施状況調査の結果の活用について、今後改善していく観点から、取り組みの計画を作成することが必要である。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要（平成26年度の進捗状況・課題）



(2) 運営指導委員会

活動計画（平成26年度の進捗状況・課題）

| |
|---|
| <p>第1回運営指導委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度計画の検討 <p>第2回運営指導委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の進捗状況への指導・助言 <p>第3回運営指導委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度事業の評価 <p>○平成26年度の進捗状況・課題</p> <p>計画通り開催することができたが、運営指導委員会の中では、報告や説明の時間が長くなりがちで、問題点を具体化して取り組むべき内容を焦点化し、指導・助言をしていくことが課題である。</p> |
|---|

5. 年間事業経過

| 月 | 強化地域拠点の取組 | 運営指導委員会 |
|-----|---|------------|
| 4月 | | |
| 5月 | | |
| 6月 | 第1回地域拠点内連絡協議会（CAN-DO リスト形式による学習到達目標の作成、中学校における音と綴りの関係の指導の検証等） | 第1回運営指導委員会 |
| 7月 | 小学校授業研究会（3・4年生外国語活動） | |
| 8月 | | |
| 9月 | 英語学習への関心・意欲に関するアンケート調査 | |
| 10月 | 第2回地域拠点内連絡協議会（単元ごとの CAN-DO リスト形式による学習到達目標の作成、アンケート調査結果まとめ） | 第2回運営指導委員会 |
| 11月 | | |

| | | |
|--|---|--------------------|
| 12月 | 中高連携授業研究会（高等学校会場） | |
| 1月 | | |
| 2月 | 以下計画 第3回地域拠点内連絡協議会（単元ごとの CAN-DO リスト形式による学習到達目標の作成） 中高連携授業研究会（中学校会場） | 以下計画 第3回運営指導委員会 |
| 3月 | | |
| <p>【その他の取組】※あれば記入 先進校視察（校種別、年1回） 小中学校における ALT による教員の英語コミュニケーション能力向上講座（月1回）</p> | | |

（本事業担当連絡先）

| | |
|-------------|--|
| 都道府県教育委員会等名 | 鳥取県教育委員会 高等学校課 英語教育推進室 担当（藤原） |
| 連絡先（電話番号） | 代 表： 0 8 5 7 - 2 6 - 7 5 1 5 直 通： 0 8 5 7 - 2 6 - 7 9 5 9 |
| （電子メール） | E-mail： fujiwaran@pref.tottori.jp |